

REPORT

特集

NAB 2018 速報レポート

参加者は減、低調な感すら……

ATSC 3.0の開始や周波数リパックなどの大転機にも関わらず

NAB Showは4月9日から展示会が始まり、12日に幕を閉じた。「M.E.T」——メディア、エンターテインメント、テクノロジーのコンバージェンスを掲げ、コンテンツ創造から消費までのデジタルエコシステムで成功するための最新技術、ツール、プロフェッショナルなつながりの場としてあるのが、NAB（全米放送業大会）年次総会である。ここ数年は10万人以上の来場者であったが、今年は約1割減と少なくなり、出展社数も減ったという印象だ。セッション参加者からも「参加数はもちろん、議論も低調な感じ」という声が聞こえてきた。

NAB 2018の速報レポートをまとめた。

◆連載96 / Mr. Tedのアメリカ最新メディア速報

全米の放送・メディア業界で進む再編動向

レポート: テッド若山 米国放送業界アナリスト、NSIリサーチ代表

◆ブースレポート / パナソニック

ブースでの視線はここに集まった

◆レポート

展示は正直なものだ!

文: 塚本幹夫 株式会社ワイズ・メディア 代表取締役

◆編集部レポート

NABの注目動向と今後の課題

文: 吉井 勇 本誌編集部



4月9日10時からの展示会オープンを待つ参加者たち



展示会に先駆けて行われた「Road to ATSC 3.0」ブースのRibbon Cutting。ATSC、NAB、CTA (the Consumer Technology Association) のメンバーたちが揃う



コンベンション内の駐車場エリアで自律自動運転のミニバスを走らせHD画質の移動受信機能をアピール